

Q19 家庭や地域との連携はどのように図っていけばよいのでしょうか。



道徳科は全教育活動を通じて行う道徳教育の要です。授業を公開することは、学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域から得るためにも大切なことです。通常の授業参観のほかにも、授業を参観した後に講演会や協議会を開催する方法なども考えられます。

また、保護者が児童と同じように授業を受ける形で参加したり、児童の話し合いに加わり意見交換したりするなど形式を工夫することで共通理解を一層深めることが期待できます。学校の年間計画に位置付け、保護者だけでなく地域の人々にも呼びかけて積極的に授業を公開することが望まれています。

積極的な参加や協力を得る工夫

授業の実施への保護者の協力を得る

- ・児童と同じ立場で参加したり、授業前に、アンケートや手紙等の協力を得たり、授業後に道徳的実践を家庭に依頼したりすることが考えられます。「家族愛、家庭生活の充実」以外でも授業で生かしたい方法です。

地域の人々や団体等外部人材の協力を得る

- ・地域や社会で活躍する人々に専門知識を生かした話題や児童へのメッセージを語る講師として協力を得ることは効果的です。日頃から地域との連携を深め、協力依頼できる人材の情報を集めておくことが大切です。

地域教材の開発や活用への協力を得る

- ・地域を題材にした教材を開発する場合には、その分野に従事する人や地域の造詣が深い人などに協力を得ることが考えられます。授業で活用する場合でも、資料提示や話し合いを深めるために解説や実演などで授業の効果を一層高めることが期待されます。

多様な連携の創意工夫

共通理解を図る工夫

- ・学校通信や学年通信、ホームページ等で学校の道徳教育の方針や諸計画、児童の成長の様子がうかがえるような取組を伝えていくことが考えられます。
- ・保護者会などの機会に児童の声を伝え、保護者と道徳教育に関する考え方を相互交流することが大切です。
- ・道徳科の授業公開を学校の年間計画に位置づけます。
- ・PTA等の協力を得て、家庭教育にかかわる講演会等に教師が協力することも考えられます。

かわさきキャリア在り方生き方教育との関連

- ・一人一人の生き方にかかわる教育であるキャリア在り方生き方教育は学校での活動と共に、家庭や地域での人間関係や生活体験を通して、「生き方」の基本を培っていきます。これは道徳科の目標とも重なります。道徳科の学習のなかでもキャリア教育の視点を意識して児童に働きかけ、人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿を目指していきます。